



講演する上村氏

熊本地名研究会の6月例会は28日午後1時30分から熊本市のパレア会議室で開き、多良木町企画観光課・主任学芸員の上村麻妃さんが「肥後宗像ファミリーヒストリー」多良木町所蔵資料『肥後宗像家文書』から」と題して講演、福岡県宗像市の宗像大社の大宮司だった宗像家の系譜に関する文書について詳しく説明した。この史料は、多良木町に伝わる「肥後宗像家文書」と呼ばれるもので、上村さんは、発見の経緯やエピソード、内容、歴史的背景について話したが、これまで断絶したと思われて

## 宗像社縁の 肥後宗像家 熊本で継承された系譜

## 名跡と文書変遷を経て球磨へ

多良木町学芸員  
上村氏が講演

# 熊本乃地名

ニュースレター

発行者 熊本地名研究会  
会長 木崎康弘

題字 松野国策 書

いた宗像家の系譜や重要人物の役割が明らかにされ、出席者も高い関心を寄せていた。この日の出席者は17人だった。以下は上村さんの講演の要旨。（報告者・藤野）  
令和元年7月、多良木町の宗像家に保存されてきた文書群が町に寄贈されたのだが、発見の経緯はかなり偶然のものだった。宗像家の当主が亡くなり娘さんが後片付けをされていたところ、文書を発見し相談するために役場に持って来られた。文書の年代は、16世紀後半（豊臣秀吉九州平定）から明治時代まで。町の概要調査時点で約80点の史料を確認。その中には豊臣秀吉発給文書が2点含まれていた。目録作成後、76件114点の史料を確認。九州大学花岡興史博士に詳細調査を依頼し、令和3年3月に報告書がまとまった。  
肥後宗像家は世界遺産にも登録された宗像大社の大宮司の系譜を受け継ぐ家系。亡くなった当主は宗像景敏さんと言い、俳句をたしなまれたので夕野火（ゆのび）と

### 地名研究会 告知板

#### 8月行事日程

- ❖例会 お休みです。
- ❖勉強会

テキスト「地名の研究」

（柳田國男著）

8月8日（土）午前9時30分～  
パレア会議室5

＊地名研ブログでも  
活動や関連ニュース  
を発信中



宗像才鶴充て秀吉文書。天正十四年拾月十日付け判物  
（多良木町提供）

いう俳号を持っておられた。大正11年球磨に生まれ、熊本中学校から中央大学に進学したが、昭和18年学徒出陣で海軍へ。特攻隊チームに入ったが終戦を迎えた。驚いたのは、復員の際に自ら飛行機を操縦し鹿児島から入吉まで飛んで来たこと。その後、中学校教員をされ、俳句は「みそさざい」に入会して上村占魚に学んだ。その父

の酉二（ゆうじ）さんは、明治6年熊本市生まれ。明治34年ごろ宗像家の婿養子となり、多良木郵便局長を務めた。祖父の景雄さんは嘉永2年（1849）生まれ。明治10年の西南戦争に従軍（薩軍）し降伏、服役後、熊本に帰り上村（現あさぎり町）の神殿原開拓に従事され、政治活動もされたようだ。明治31年に岡原（現あさぎり町）から多良木に移った。多良木村議員も務めている。

#### 【肥後宗像家の歴史と秀吉文書】

肥後宗像家の祖とも言えるのは宗像清兵衛（景延）で、宗像大社最後の太宮司である宗像氏貞の3女の婿養子。清兵衛が細川忠興に仕えて以降、宗像家は代々細川家の家臣として続き、11代目までが記録されている。11代目加兵衛の次の次が景雄さんになる。（家系図2ページ参照）

発見された宗像才鶴宛ての秀吉文書は、天正14年（1586）10月10日付判物と天正15年3月28日付の朱印状の2つ。判物は、秀吉が才鶴に対して島津氏の九州北上を阻止したことを称賛し、知行を認めた内容。紙質は雁皮（がんび）と呼ばれ表面が光った高級和紙が使っており、秀吉の花押も立派だ。もう一つの朱印状は普通の紙で花押ではなく朱印が押してあり、このことから才鶴が秀吉の家臣になったことを示している。

宗像才鶴の名はこれまで「原家文書」と「毛利家文書」に出てきてはいたが、いったい誰なのか長く謎とされてきた。それが肥後宗像家の文書発見など最新研究によって、毛利家家臣の益田元祥の子、益田景祥であることが明らかになった。景祥は宗像氏貞の死後、宗像家の養子となり、才鶴

（2ページに続く）